

食料経済学特論演習Ⅱ (2単位)

担当者氏名 菊地昌弥・竹内重吉

◆学習・教育目標

経済のグローバル化の中で、フードシステムの深化や食料消費内容の変化など、我々の食生活は大きく、急激に変化してきた。消費者と生産者との間の地理的、段階的、時間的距離の乖離の中で、我々は栄養・健康問題、地域格差、食料安全保障、食料安定確保、食文化の喪失、食習慣の乱れ等様々な問題に直面している。本演習では、こうした課題に対して経済学的・フードシステム論的観点から大学院生が幅広い知識を身に付けるとともに、論理的思考をもって研究課題を探索できるようなことを到達目標とし、担当教員との論議を中心に講義を展開する。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

食料問題	食品流通	フードシステム	食料消費
アグリビジネス	マーケティング	食品安全	食育

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	フードシステムとは(第1週)	①フードシステムの基本課題の理解を深める	準備すべき事項は、レジユメの作成・該当部分の予習、さらに、常に自らの考え方を整理して、洞察力、分析力、プレゼンテーション能力を高めることが大切である。 (毎回の準備・復習時間は、それぞれ1~2時間程度を目安とする)
2	食料経済の理論(第2週)	②食料経済学の理論を復習する	
3	食料消費構造の変化とその要因(第3~4週)	③論文執筆に関する演習	
4	論文演習(第5~6週)	④産業組織論的視点で食品工業・外食産業の構造をみるとともに、食品流通の変化と今後について議論する	
5	食品産業の変化(第7~8週)	⑤食、農、環境との関わりについての理解	
6	食と環境の関係及び食と農業の関係(第9~10週)	⑥食の問題と食育の意義について議論する	
7	食育の課題(第11週)	⑦食料消費及び食育に関する分析手法の理解及び習得	
8	食料消費・食育関連の分析方法(第12~13週)	⑧食料関連調査を想定し、調査票を作成してみる。	
9	食料関連調査方法の検討(14~15週)		

◆教科書及び資料(授業前に読んでおくべき本・資料)

食料経済(高橋正郎)理工学社(2011)

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

フードシステムの経済学(時子山ひろみ・荏開津典生)医歯薬出版株式会社(2008年)

食生活と食育(上岡美保)農林統計出版(2010年)

◆評価の方法(レポート・小テスト・試験・課題等のウエイト)

レポート(30%)、課題のプレゼンテーション(20%)、授業中のディスカッション(25%)、授業中の演習(25%)

◆オフィスアワー 金曜日 16:30~18:00

◆その他受講上の注意事項

授業の進行については一例であり、具体的には授業時に指示する。
